

1999年を迎えて



日立製作所 取締役社長

金井 務

日ごろより「日立評論」をご愛読いただき厚く御礼申し上げます。「平成11年度の日立技術の展望」号をお届けするにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

日立製作所は、1910年の創業以来、技術力をもって事業の礎とし、この技術力の下に業容の拡大を実現してきました。しかし、日本経済が重大な岐路に立たされている今、もはや技術だけでは事業が成立しないことは明らかです。一方、世界に目を向けて見ましても、産業界はメガコンペティションの時代を迎えており、需要が拡大していく製品分野と、成熟から縮小に向かう分野とが截然と分かれつつあります。

このような時代にあっては、世界に広がる顧客のニーズを的確・迅速に把握することが大切です。そのためには、技術力に加えて「オリジナルな製品をタイムリーに生み出していく市場創造力」が必要です。当社の製品では、超大型汎用コンピュータ、スーパーTFT液晶ディスプレイ、SHマイコン、DVD-ROM/RAM、電子マネー、環境関連ビジネスなどが代表的な例であり、いずれも技術が顧客のニーズをクリエイティブにとらえた製品として花開き、業界をリードしているものです。

現在、インターネットの爆発的な普及が如実に示すように、「情報化社会」が身近で具体的な姿を現そうとしています。これからの時代を支えるのがエレクトロニクス技術と情報システム技術です。これらの技術を中心として、「情報化社会」は21世紀の「知識社会」へと進化を遂げていくことでしょう。この成長分野は、今、当社が目指している「先端技術をベースにした創造性の高い事業に積極的に取り組む」という方向に一致しています。また、当社が戦略的事業として重視している情報、エレクトロニクス、システム、社会インフラストラクチャーへの貢献という広大なフィールドは、未来を見据えたとき、さらにその視界が広がります。

当社は、各分野において、研究開発、製品企画、設計・製造、営業、品質保証など、それぞれの部門が一致協力してデファクトスタンダードとなるような製品を生み出すべく常に体制を整えており、そのために「技術・信頼・世界・未来」を全社員共通の価値観とし、新たに飛躍する決意を固めています。

皆様の一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。